富山大空襲 どう語る

映画製作経験 県在住米国人 「再会楽しみ」

米国の映画監督オリバー・ストーンさん＝顔写真＝が12日に富山市で開かれるイベントに参加するため初来県する。米ハリウッドで映画脚本家として活躍し、現在は富山市四ツ葉町の英会話教室「アポロ・イングリッシュ・アカデミー」を経営するマイケル・ゴザードさん（45）は「富山で監督に再び会えるのが楽しみ」と期待に胸を膨らませている。【関連広告２面】

オリバー・ストーン監督 初来県へ

ゴザードさんは1972年、米フィラデルフィアで生まれた。25歳で映画の道に進み、脚本家として映画製作に携わった。社会問題に鋭く切り込むストーン監督から大きな影響を受けたと言い、「育ての親のような存在」と話す。

ゴザードさんによると、ストーン監督は米軍の原爆投下や日本の都市への攻撃に強い反感を抱いており、富山大空襲にも関心を示している。監督が手掛けたドキュメンタリー「オリバー・ストーンが語る もうひとつのアメリカ史」では、米軍の攻撃を受けた都市の一つとして富山が取り上げられた。「広島や長崎が注目されるが、他の都市でも多くの被害が出た。同じように語り継いでいくべきだ」と訴えているという。

「『現在の社会問題を解決するには、過去から学ぶ姿勢が大事』という監督の言葉にとても共感する」とゴザードさん。富山大空襲から未来の富山を考える今回のイベントについて、「監督の言葉が、富山の人たちの心にも響けばうれしい」と話した。

イベントのチラシを手に期待の思いを語るゴザードさん＝アポロ・イングリッシュ・アカデミー

平和考えよう

12日富山国際会議場

イベント「Think&Imagineオリバー・ストーンと考える未来の富山」は12日、富山市の富山国際会議場で開かれる。

社会派映画監督として知られるオリバー・ストーンさんを招き、パネルディスカッションやストーン監督の米アカデミー賞受賞作「プラトーン」の上映などを通して富山大空襲や平和について考える。北日本新聞社と富山テレビ放送でつくる実行委員会主催、富山市共催。

スタートの号砲とともに勢いよく海に飛び込む選手たち＝岩瀬浜

鉄人集結 限界に挑む

いきいき富山トライアスロン

「いきいき富山トライアスロン」は5日、富山市の岩瀬浜―立山山麓間で行われ、国内外の約460人が合計距離51・5キロ、標高差約600メートルのコースに挑んだ。【関連記事14面、webunに写真7枚】

大会は2015年に15年ぶりに復活し、今年で33回目。個人のスタンダードの部に426人、1チーム3人で競うリレーの部に5チームがエントリーし、台湾から選手1人を招待した。新しく設けられた初心者向けのチャレンジ部門に21人が参加した。

県民体育大会、富山市民大会の他、今年から新たに近畿学生選手権大会も兼ねて実施された。

レースは岩瀬浜で1・5キロ泳ぎ、自転車で常願寺川に沿った40キロを南下、最後にゴール地点の立山山麓スキー場周辺の10キロを駆け抜けた。

トライアスロンの県協会と富山市協会でつくる実行委員会主催。北日本放送、北日本新聞社共催。

高岡商 堂々行進

夏の甲子園 100回大会開幕

第100回全国高校野球選手権大会の開会式で入場行進する高岡商ナイン＝甲子園球場

第100回全国高校野球選手権は5日、兵庫県西宮市の甲子園球場で開幕した。開会式で、県代表の高岡商をはじめ史上最多56校の選手たちが堂々と行進した。【関連記事17面】

昨年優勝の花咲徳栄（北埼玉）に続き、南から北の順に代表校が登場。高岡商は30番目で、中村昂央主将を先頭にメンバー18人が勇姿を披露した。

近江（滋賀）の中尾雄斗主将が選手宣誓した。プロ野球や米大リーグで活躍した星稜（石川）出身の松井秀喜さんが始球式を行った。

初日は1回戦3試合があり、星稜などが2回戦に進んだ。

高岡商は7日の第3日第1試合で佐賀商と対戦する。

ペットボトル携帯 開会式で水分補給

アルプス席には散水機

開会式では選手やプラカード係の高校生が小型のペットボトルを携帯して、入場行進した。式典中には異例の水分補給の時間が設けられ、熱中症への対策が講じられた。

「ここで熱中症予防のため、水分補給の時間を取ります」。入場行進が終わると、場内アナウンスが流れ、選手らがポケットに入れていたペットボトルを取り出して、飲料水を飲み始めた。前橋育英（群馬）の北原翔主将は「最初は驚いたけど、すごい暑さなのでありがたかった」と振り返った。

アルプス席では、霧状の水が出る散水機で応援の生徒に直接水をまく対応もあった。

アルプス席で応援する富山の生徒たちに散水機で水をまく学校関係者

精神障害者求職 5年間で1.5倍に

ハローワークでの障害者の新規求職申込数が2016年度、5年前と比べて16・3％増の約17万6千件となったことが、厚生労働省のまとめで分かった。特に精神障害者の求職は1・5倍と大幅に増えた。

健常者を含めた新規求職申込数はこの間、雇用情勢が好調で仕事を探す人が減っている。厚労省は「障害者雇用に対する企業の理解が進んだことで、働く意欲が高まったのではないか」と分析。精神障害者の大幅増は、精神障害の手帳を持つ人自体が増えたことも要因という。

厚労省によると、16年度の精神障害者の求職件数は11年度比49・9％増の約8万5千件で、障害者全体の半分近くを占めた。知的障害者も15・4％増えたが、身体障害者は11・6％減った。身体障害者の場合、既に雇用が比較的進んでいたことが減少の理由とみられる。

一定規模以上の企業に義務付けられている障害者の雇用率は今年4月から2・2％に引き上げられ、精神障害者も義務の対象に加わった。

梅かま

僕は文章の書き方は音楽から学んだ

村上春樹さん 初ラジオDJ

「僕は文章の書き方は音楽から学んだ」―。作家の村上春樹さん（69）＝写真（ロイター＝共同）＝が初めてディスクジョッキー（DJ）を務めたラジオ番組「村上RADIO（レディオ）～RUN&SONGS～」が5日、TOKYO FMなど全国38局で放送された。村上さんは、海外のロックを中心に曲をかけ、書くことと音楽の結び付きについて語った。【関連記事25面】

番組では、ジョージ・ハリスン「絶体絶命」や、パンクミュージシャンのジョーイ・ラモーンによる「この素晴らしき世界」など、音楽通ならではのカバー曲を紹介。

ベトナム戦争当時にヒットした反戦歌、エリック・バードン&ジ・アニマルズの「スカイ・パイロット」は「（当時）ラジオから聞こえてくると、空気がひりひりするような特別な感触があった」と述懐した。

村上さんは「誰かの小説から技法を学ぶというより、リズムとかハーモニーとかフリーインプロビゼーション（即興演奏）とか、そういうことを意識して、フィジカル（肉体的）に書くという傾向が強い」と、執筆スタイルを音楽に学んだことを強調した。

排水路に74歳男性遺体

5日午前10時50分ごろ、射水市中野（大島）の西部8号排水路で、同市大島北野、無職、後田実さん（74）がうつぶせで倒れているのを近くの住民が見つけた。後田さんは既に死亡していた。

射水署によると、排水路は幅2・5メートル、深さ約1・5メートル、水深50センチ。4日夜に排水路の上流約500メートルにある用水路（幅80センチ、深さ80センチ、水深5センチ）で、後田さんの自転車が前輪が落ちた状態で見つかっていた。後田さんに目立った外傷はなく、用水路に転落したとみて調べている。6日以降に司法解剖し、死因を調べる。

■線路にテーブル 緊急停止

5日午前8時10分ごろ、滑川市中村のあいの風とやま鉄道の踏切で、高岡発黒部行きの普通列車が線路に落ちていたテーブルにぶつかり、緊急停止した。乗客乗員約20人にけがはなかった。

滑川署によると、テーブルは木製で、長さ180センチ、幅44センチ、高さ64センチの折りたたみ式。4日に行われた地元の夏祭りの後片付けで5日朝に資機材を運んでいた軽トラックが踏切を通った際、荷台から落ちたとみられる。同署は軽トラックを運転していた同市の60代男性に話を聞き、詳しい状況を調べる。

この列車が26分遅れたのをはじめ、他の6本にも遅れが出た。

■ホテル火災で300人避難

5日午後6時55分ごろ、和歌山県那智勝浦町湯川の湯快リゾート（京都市）系列のホテルで、男性従業員から「2階の女子トイレから煙が出ている」と119番があった。地元消防によると、客や従業員ら300人以上が避難した。逃げ遅れはないもよう。20代の女性客1人が体調不良を訴え搬送された。

ホテルの建物に燃え広がり、地元消防が消火活動を続けた。新宮署が詳しい状況を調べている。